

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. 63

**エントリー学校名：**福島県相馬市立中村第一中学校

**活動名：**深い学びに迫る学習指導 ～チーム力で強みを生む学校づくり～

**解決すべき課題：**

- 1 教師同士が、指導方法を共有したり多様なアイデアを出し合ったりする場が少ない。
- 2 生徒たちが、各教科で得た知識・技能を関連付け、見方・考え方を働かせる深い学びの育成が求められている。
- 3 構築した研究組織の力を最大限に機能させるため、キャップ中心の動きをチーム全体に変える必要がある。

**目標・方針：**

- 1 部活動なしの放課後の時間を協議会に設定する。協議会の事前に研究組織のキャップによるスモールミーティングを行い協議会の短縮化を図ることで、負担軽減を考えながら協議会の場を増やす。
- 2 **Dカード**を使用し、授業研究をする際に教師が役割を決め生徒たちを細かく見取る。生徒の発言、表情や行為などを文字言語の記録の他にデジタルカメラやデジタルビデオ、タブレット(動画)なども有効活用する。
- 3 教師同士がチームで協働し指導案を練り上げることで、一人の負担を軽減すると同時に個の力を集結させ教師同士の関わりを強める。

**活動内容：**

- 1 研究組織のキャップ同士が事前に協議のコーディネイトを考え校内研修を月1回設定する。
- 2 教科研修チーム(授業研究)のリーダーが協議会でプレゼンを行い、全職員で深い学び(**Dカード**)について生徒の状態を共有し、読解力向上チーム、資料分析・活用力向上チーム、道徳教育推進チーム(以下、3つのチーム)の指導につなげる。また、指導主事の指導助言を仰ぎ、校内研修の質的転換を求める。
- 3 3つのチームと教科研修チーム(授業研究)を融合し教師同士の関わりを強める＝協働。

**活動の成果：**

- **チーム結成**・・・3つのチームの中から同一教科の教員による教科研修チーム(授業研究)を編制することで、一体化を図ることができた。また、教科研修チームの編制の際、必要な人数を補うために研修部キャップが加わることで、効果的にチームの連携が確立できた。(写真1、写真2、写真3)
- **Dカードの導入**・・・授業者とチームのメンバーが協働し、事前⇒授業⇒事後と協議を重ね常に同じ視点で生徒たちの学びの姿を捉えながら授業研究の質を高めることができた。(図1)
- **協働**・・・全職員がチームとしての取組を理解し協働する体制を整備することで、本校の教育活動のよさを継承しながら生徒たちの深い学びという視点で授業改善を積み重ねることができた。(図2)(写真4)

**アピールポイント(アイデアや工夫)：**

- ◎ 3つのチームと教科研修チーム(授業研究)を融合することで、生徒の行為の背景がわかり、生徒のつまずきを教師同士が改善策について本音で話し合える協議会に発展している。
- ◎ **Dカード**の導入により授業の様子を丁寧に記録し、一人一人の生徒の名前を挙げながら深い学びの姿について協議ができるようデザインしてきた。
- ◎ 全職員がチームに所属し協働して研究を進めていくことで、持続可能な新しい発想を追究する学校創りになっている。

本校生徒の学習・生活状況(調査から)  
 ▲弱み、今後改善させたい点  
 ・読解力に弱み  
 ・資料分析力に弱み  
 ・自己肯定感の停滞

**現職教育のストロングポイント**  
 ・校内研修11回実施  
 ・チームで取り組む授業研究  
 ・読解・資料・道徳チームの一体化

本校生徒の学習・生活状況(調査から)  
 ○強み、さらに伸ばしたい点  
 ・学習に向かう意欲  
 ・基本的な生活習慣

(写真1)



【読解力向上チーム】  
 国語科が基盤(本校職員14%所属)  
 ○チームの取組  
 ・コラムシートの活用  
 ○授業研究  
 ・2年国語 意見文の説得力を考える  
 ○成果  
 ・主張の異なる新聞の社説を読み、自分の意見を共有し合う活動を通して、情報と情報との関係の様々な表し方を捉えることができた。また、情報を受け取る側としての意見や技能について深めることができた。

(写真2)



【資料分析・活用力向上チーム】  
 総合的な学習が基盤(本校職員38%所属)  
 ○チームの取組  
 ・探究し社会に貢献できる生徒の育成  
 ○授業研究  
 ・3年社会 第二次世界大戦と日本「なぜ戦争を止めることができなかったのか」  
 ○成果  
 ・他の生徒の発表から、自らと異なる視点や立場の存在に気づき、社会的な見方・考え方を働かせて授業の課題を解決し、単元のまとめを記入していた。

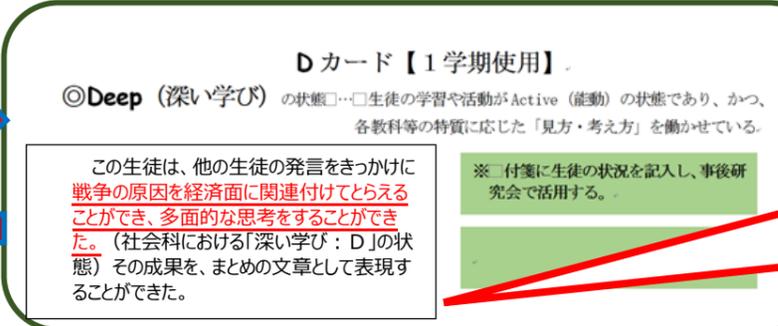
(写真3)



【道徳教育推進チーム】  
 全職員(本校職員48%所属)  
 ○チームの取組  
 ・全校道徳→学級道徳で授業の展開  
 ○授業研究  
 ・SNSトラブルの解決  
 ・思いやり～利他を真剣に考える  
 ○成果  
 ・異年齢集団により多面的・多角的な意見交換できた。その意見を参考にしたり自分の意見と比較したりすることで、真剣に考えを深める機会をつくることができた。

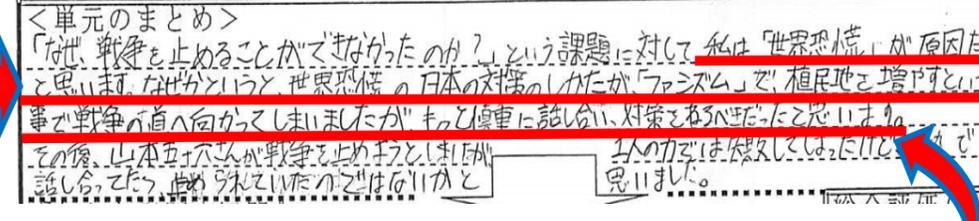
参加者が本音で話し合える場をデザインする

(図1)



Dカードの導入により、深い学びの状態を参観者で共有し、事後研究会では協議のポイントにフォーカスして話し合いができた。

(写真4)(図2)



全職員がチームとなり、授業研究の質を高め「深い学び」の検討を重ねる

本校の強みに変え、深い学びを実現するカリキュラム・マネジメントの充実を図る

友達の意見を聞き「どちらでもない」から「できる」に修正した。細かい見取りを大事にした。